

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組1】(A・B中学校)

- 視覚に効果的に訴える掲示物の工夫
学校行事の前後や、普段の生活を写真に収め、学年掲示板に掲示
- 学年間の掲示物
上級生から下級生へのメッセージ(川柳)を掲示
- ほっとスペースの活用
学年廊下に、勾玉型テーブルを設置し、気軽に利用できるスペースと雰囲気創出
- ハートフルウィーク(二者面談)の実施
三者面談とは別に、生徒が話したい教員を選んで自身の関心話す機会の確保



【取組2】(B・C中学校)

- ステップアップアンケート
月間で各種学校生活に関するアンケートを行い、学年廊下に掲示
学校生活の改善に向けた生徒同士の意見交流の機会を生徒主導で実施
- パイオニア活動
地域の清掃活動やボランティア活動の実施
- ありがとうカード
生徒同士の感謝の気持ちを書いたカードを、学年廊下に掲示

【取組3】(A中学校)

- 生徒意識調査アンケートを活用した授業改善の実施
 - ・第1学年保健体育では、体づくり運動において、実施例を複数用意し、取組内容を自分たちで組み合わせ、主体的に運動に取り組めるよう授業改善を図った。
 - ・第1学年美術では、ICTを活用し、毎授業のはじめやまとめ等で、教員が作成した動画を視聴し、見通しや振り返りを効果的に行った。

【取組4】(D中学校)

- 校内研修の第1回は不登校理解をテーマとした。第2回では、第1回生徒意識調査の結果から取組内容を協議して決定し、第3回では、生徒指導の実践上の視点を踏まえた授業づくりについて話し合った。第4回では事例アセスメント演習を通して、多面的なアセスメントを検討し、第5回では第2回生徒意識調査の結果から取組内容の改善を図った。第6回では第3回生徒意識調査の結果から課題を整理した。

多様な学びの場を確保する取組

〔「早期支援」及び「長期化への対応」の取組〕の推進

支援会議（D中学校）

- 毎月末の集中検討会
不登校傾向や別室利用生徒も含む。
- 独自シートを活用した支援の可視化
クラウド上の表計算ソフトを使い、複数人で同時に編集を行う。AIを活用して議事録を作成することで、話し合いの時間が確保できた。また、シート内の枠の追加など柔軟な対応が可能となった。

アウトリーチによる支援（E中学校）

- SSWの家庭訪問に同行
夕方以降の連絡がつながりにくい家庭に対し、SSWと共に昼間に家庭訪問を実施した。
- 担任の家庭訪問に同行・学校での面談
巡回教員が保護者に情報提供をしたり、対話の場を設定したりした。保護者の心理的な負担の軽減に効果があった。

校内別室における支援（D中学校）

- 利用前面談と定期面談（月1回）の実施により多角的な支援の検討
- 自己決定の場の提供を意図的に行い、生徒の思いに寄り添う。
- 活動記録は紙面かスプレッドシートか選択してもらい、毎回担任が確認する。
- 午後は、支援員の強みを生かした体験活動を実施。
- 支援記録は、スプレッドシートで校内にて即時共有。
- 「学習スペース」、「交流スペース」、「運動スペース」に区分けをし、メリハリのある場を工夫。



デジタル機器を活用した支援（A中学校）

- いつでもつながるオンライン授業
各教室に1台、後方のロッカーに端末を設置し、オンライン配信ができる状態にしている。
- 専用クラスルーム
メッセージの投稿やオンライン面談等を実施している。



関係機関との連携（C・E中学校）

- 区教育支援センターやフリースクールに出向き、利用生徒の様子を詳しく聞き取り、在籍校と共有している。
- 定期考査や実力考査などの問題を届け、学校以外での実施希望が叶うように、巡回教員が関係機関と連携している。

成果

- 不登校の未然防止に重点を置き、巡回担当校全てで、不登校生徒の割合が都平均を大幅に下回った。
- 研修等を通して校内の認識を共有した。

課題

- 不登校への対応に関する共通理解やフローチャート等の活用により、初期段階から組織的に迅速な対応を全教職員で行う。